

## 地域との交流から 札幌国際センター・帯広国際センターの行事

### 松前町にて国際交流(平成17年10月8～10日 松前町)

松前町民の皆様と松前町役場のご尽力により北方圏センター行事の一つとして、JICA札幌に滞在している14カ国20名の研修員が10月8日～10日にかけて同町を訪問し「国際交流」を行いました。

多くの場合、北海道に滞在する外国人研修員や留学生は、彼らが来日前に抱いてくる日本に対するイメージ(侍、舞妓さん、和式家屋・町並み・城等)を実際に目の当たりにする機会がありません。侍が現実には存在しないのはわかっている、やはり自分の目で直接見て、衣装を着てみたいのが人の気持ちというものです。そこで道内で唯一、「お城」のある松前町にご相談したところ、町民の皆様、観光協会、役場・町議・町長のご厚意とご支援により20名の研修員の同町訪問が実現しました。

初日は到着が土曜の夕刻であったにもかかわらず、役場職員の皆様の出迎えを受けて、「温泉入浴体験」と「役場職員との懇談会」の後、町民の皆様のご自宅ホームステイを体験しました。今回のホームステイは2泊3日にわたるものですが、各受入先において大変なもてなしを受け、研修員は心から感激していました。

2日目は、松前城と寺町を見学しながら簡単な日本史の講義を聴いた後、「松前藩屋敷」において「餅つき」と「武士装束着付け」を体験し、将軍や侍の姿で、武者行列を披露しました。夕刻からは、同町江良地区にて町民の皆様と研修員が、研修員の母国の自慢料理を造る料理交流会を開催しました。その後は、地域国際交流会を開催して、江良地区郷土芸能をご披露していただき、研修員からは「母国クイズ・ゲーム」を出題して、正解だった町民の方に自国の記念品をプレゼントするなどして交流を深めました。交流会は瞬間に時間が過ぎていきました。

そして3日目は、お世話になった家族の皆様温かい声に送られて、名残惜しみながら松前町をあとにしました。札幌に帰ってからも、研修員は皆、「一生の思い出になった」と言って興奮が冷めやらない状態でした。

北海道の秋の一時を松前町で過ごした彼らは、この思い出を国に帰ってもずっと伝えていくことでしょう。

松前町の皆様、本当にありがとうございました。(主催:札幌国際センター・松前町)



地域国際交流会で

### 浦河町での出会い(平成17年10月30日 浦河町)

十勝路から天馬街道を越える道中は、紅葉の盛りで、車内は既に興奮気味でした。

国際理解促進事業の一環として行われた浦河町の方々と交流会は、13カ国25名のJICA帯広の研修員の参加を得て、10月30日に行われました。当日JICA帯広に滞在する研修員のほとんどが参加してくれました。

交流では子どもたちのパフォーマンスでのアイスブレイクに始まり、昼食交流会をはさみ、ウタリ伝統文化保存会の舞踊、ムックリの実演と、研修員も参加できる場面も用意され、短い中でも印象に残る交流ができました。

当日はイスラム教徒にとって日の出から日の入りまで飲食ができないラマダン(断食月)にあたり、参加したイスラム教徒の研修員3名は昼食をとることはできませんでしたが、会話は十分に楽しんでいました。

交流の最後には、研修員のうち4カ国の方々によるパフォーマンスが行われ、それぞれのお国柄がうかがえるものでした。事前に希望をとった際には、ほとんどの研修員が参加を申し込んでくれました。時間の都合で調整せざるを得ませんが、我々にとっても、それぞれの国の文化に直接触れることが、国際理解促進の大きな契機になると改めて感じました。

浦河まではバスで往復5時間かかりましたが、参加者は日高路の秋景色に感嘆し、浦河での交流の満足感とも相俟って、疲れた様子は全く見えませんでした。

浦河町教育委員会、協力していただいた浦河ウタリ伝統文化保存会と演劇サークル「さぼてん」など浦河町の皆さん、本当にありがとうございました。

(主催:帯広国際センター・浦河町教育委員会)



真剣な表情でムックリを習う研修員



サルサを披露するコロンビアの研修員たち

## 北海道内の国際協力・国際交流団体から 地域の活動

### 十勝インターナショナル協会とともに

### 地域国際交流会議<十勝地区>を開催(平成17年10月30日 帯広市)

北方圏センターが道内各地で実施している地域国際交流会議を十勝インターナショナル協会とともに森の交流館・十勝の多目的ホールで開催し、講演などを行った。

講演では、16年間にわたって国際交流や国際協力に携わってきた武蔵野市国際交流協会のプログラム・コーディネーター、杉澤経子さんが、「多文化共生のまちづくりを目指して～国際交流活動の意義と私たちの役割～」と題して、東京における外国人相談のあり方、異文化の中で暮らす外国人のストレスなどを紹介しながら、国際理解の3要素はコミュニケーションをとること、協力すること、自己を肯定する(ひいては他者をも肯定する)ことにあり、単に国を理解するのではなく人間関係を築くためのアプローチであることや、国際交流・国際協力に携わる人は在住外国人の持っている良さや優れた点を認めることで共生社会を作り上げて欲しいと強調した。

最後はグループごとに参加者それぞれの立場から十勝地域における国際交流・国際協力について意見を交わした。

(後援:JICA帯広、十勝支庁、帯広市)



ワークショップ「国際交流、国際協力って何?」でその言葉から浮かぶ言葉を書き出している

